

与那原町教育委員会事務事業の点検・評価報告書
(令和7年度事業)

令和8年9月

与那原町教育委員会

1. はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

この報告書は、法律に基づき、前年度の事務について、与那原町教育委員会が実施した状況を自ら点検評価したものをまとめたものです。また、その結果を議会に提出するとともに町民に公表することといたしました。

令和8年9月

与那原町教育委員会
教育長 垣花 英正

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 教育委員会について

①教育委員会の委員

教育長	委員 (職務代理者)	委員	委員	委員
垣花 英正 (かきのはな ひでまさ)	上原 周子 (うえはら のりこ)	米須 清貴 (こめす きよたか)	上地 かおり (うえち かおり)	松田 百恵 (まつだ ももえ)

②教育委員会の開催状況

No	開催日	内容
1	令和7年4月17日	第1回 定例教育委員会
2	令和7年5月15日	第2回 定例教育委員会
3	令和7年6月26日	第3回 定例教育委員会
4	令和7年7月17日	第4回 定例教育委員会
5	令和7年8月21日	第5回 定例教育委員会
6	令和7年9月18日	第6回 定例教育委員会
7	令和7年10月16日	第7回 定例教育委員会
8	令和7年11月20日	第8回 定例教育委員会
9	令和7年12月25日	第9回 定例教育委員会
10	令和8年1月22日	第10回 定例教育委員会
11	令和8年2月16日	第1回 臨時教育委員会
12	令和8年2月19日	第11回 定例教育委員会
13	令和8年3月12日	第12回 定例教育委員会

※その他、小中学校入学式、卒業式及び学校計画訪問等実施

3. 点検評価について

(1) 点検評価対象年度

評価する対象年度は令和7年度とする。

(2) 点検評価の方法

点検評価については、令和7年度与那原町の教育に定められた各種施策の中から、主要施策を抽出し事務事業の点検評価を行った。

点検評価を行うにあたり、担当課による事業ごとの評価を行い、定例教育委員会にて確認を行った。さらに、外部点検評価員による確認を行い評価への意見として取りまとめを行った。

①施策別評価

ランク	解説
A	十分成果が上がっている（5点）
B	成果がある（3点）
C	改善の余地がある（1点）

②総合評価（分野別）

上記、施策別評価の点数の平均により、分野別の評価を行った。

ランク	解説
A	十分成果が上がっている（5～3.5点）
B	成果がある（3.5点～1.7点）
C	改善の余地がある（1.6点～1点）

(3) 外部点検評価員

住 所 与那原町字板良敷

氏 名 田山 宗則（たやま むねのり）

経 歴 元与那原町教育委員会 指導主事（平成29～30年度）及び元小学校校長

4. 与那原町教育委員会事務事業の点検評価

(1) 分野：学校教育

A:十分成果が上がっている（5点） B:成果がある（3点） C:改善の余地がある（1点）

No	施策名	事業説明	評価	点数	評価説明(内部評価)
1	学力向上の推進	タブレットを活用した授業及び家庭学習の工夫・改善	A	5	・評価：情報教育支援員を配置し、タブレットを活用して児童生徒が授業を円滑に行えるよう支援を行った。 ・今後：今後も継続して情報支援員配置や授業円滑化に取り組む
2		「与那原町教育の日」の取組	A	5	評価：午前中授業参観、午後実践発表会を実施。 今後：今年度は、2月7日（日）に開催予定。午後の発表会について学校の負担軽減を図りつつ、効果的な取組に改善していく。
3	支援員等配置によるきめ細やかな児童生徒支援	個に応じたきめ細やかな指導を行うために、学習支援員と特別支援教育支援員を各小中学校へ配置	A	5	・評価：小中学校に学習支援員を11名、特別支援教育支援員を21名配置しきめ細やかな支援を行った。 ・今後：継続して支援員の配置し、きめ細かな支援を行う。
4	特別支援の教育の充実	町特別支援教育コーディネーター連絡協議会の開催	A	5	・評価：年に9回開催し、各幼小中のコーディネーターとの連携を図っている。 ・今後：学校の要望に応じた研修会を組み込んで実施予定。
5		就学支援委員会の充実（町就学コーディネーターの配置）	A	5	・評価：就学支援コーディネーターを配置し、教育支援委員会に必要な発達心理検査を実施している。 ・今後：継続してコーディネーターの配置を実施。
6	学校ICT環境整備による学力向上推進	文部科学省CBTシステム（メクビット）の導入	A	5	・評価：CBTシステム及びタブレットドリルを活用し、文科省の全国学力調査、沖縄県まなびのたしかめなどのテスト、ドリル学習を実施した。 ・今後：情報教育支援員と連携し、CBTシステム及び、タブレットドリルを活用していく。
7		情報支援員3名の派遣（各小中学校へ1名ずつ配置）	A	5	・評価：情報教育支援員を配置し、授業を展開する上で教師の補助を行い、効果的にICT機器を活用できた。 ・今後：nextGIGA構想に向け情報教育支援員と連携を密に行う。通信ネットワーク速度改善の整備に課題がある。
8	学校教育部会（町学力向上推進協議会）の充実	学力向上の取組に関する情報の共有と町内共通実践による連携	A	5	評価：学校教育部会で小中学校のねらいを定めた学力向上強化月間を推進できた。 今後：学校教育部会を定期的に開催し、学力向上を推進する。
9		幼小中学校合同研修会の実施	A	5	・評価：保幼小合同研を年3回実施。小中合同研修を7/29に開催。 ・今後：保幼小合同研修と幼小中合同研修を開催し、町内教職員の資質向上を図る
10	与那原町保幼小連携及び小中連携の推進	保幼小連携体制の構築及び小中連携の推進	A	5	・評価：公開授業(保育)を年7回実施し、連携体制の構築と小中連携が推進できた。 ・今後：今年度も年7回開催予定
11		小中連携体制の構築及び推進	A	5	・評価：小中相互授業参観を各校実施(3回)し、体制の構築と推進ができた。 ・今後：今年度も1学期前半に3回開催予定
12	キャリア教育等の視点を踏まえた取組	小中学校生を対象に各種検定の受験料半額補助による学力向上推進	A	5	・評価：各種検定の受験料半額補助を行い、学力向上推進につなげることができた。 ・今後：引き続き各種検定の受験料半額補助実施等を行い学力向上に向けて取り組む。
13		「地域資源」を活用した授業づくりの推進	A	5	・評価：生涯学習振興課と連携し、職場見学や職場体験学習等の充実や授業における地域人材活用を実施した。 ・今後：生涯学習振興課と連携し職場見学や体験学習を充実させる。
14	地域教育力向上の推進	夏休み期間中の各支部での勉強会の支援（学習支援員の派遣）	A	5	・評価：6つのPTA支部で支部学習会（寺子屋）を開催した。 ・今後：継続して希望する支部に学習支援員を派遣する。

4. 与那原町教育委員会事務事業の点検評価

(1) 分野：学校教育 A:十分成果が上がっている（5点） B:成果がある（3点） C:改善の余地がある（1点）

No	施策名	事業説明	評価	点数	評価説明(内部評価)
15	教育相談等の充実	拠点型居場所の運営支援事業の継続	A	5	・評価：貧困対策支援として不登校の児童生徒の居場所を継続して実施した。 ・今後：継続して居場所を設置し、登校支援・学習支援を行う。
16		5者会議（学校・教育委員会・福祉課・子育て支援課・警察等）による、支援を要する児童生徒の情報共有と対策の推進	A	5	・評価：年9回実施。児童生徒や保護者対応や支援について情報交換や支援方法等、問題の改善に取り組めた。 ・今後：継続して年9回の実施を図る。また知念地区小・中学校・警察連絡協議会に参加し、迅速な情報交換や問題の改善を図る。
17		校内自立支援室事業における支援員の配置	A	5	・評価：小・中学校に校内自立支援室の設置及び支援員を配置した。 ・今後：継続して支援室の設置及び支援員の配置を実施。
18	健やかな体の育成	てくてく登下校の推進	A	5	・評価：てくてく登校の推奨により、小中学校約72％の児童生徒がてくてく登下校ができた。 ・今後：児童生徒の持続可能な脱炭素に繋がる取り組みに繋がると考え、継続して徒歩登下校の奨励のため、年2回実施を予定。
19		部活動における外部指導者の積極的活用及び部活動指導員の任用の推進	A	5	・評価：令和7年度より部活動指導員を女子なぎなた部へ1名配置。また16部活に外部指導者を配置した。 ・今後：引き続き他の部活動の調査を行い、部活動の地域展開に取り組む
20	安全教育の充実と、迅速な緊急時の対応	地震・津波に対する町内一斉の避難訓練の実施	A	5	・評価：地震津波避難訓練を実施している ・今後：今年度も各園・小中学校で実施予定
21		与那原警察署との連携協定に基づく、安全防犯に係る連携強化	A	5	・評価：与那原警察署と連携し、交通安全教室、薬物乱用防止教室、サイバー犯罪防止教室を実施した。 ・今後：沖縄県警及び与那原警察署と連携した安全教室、防止教室を実施する予定
22	その他	「地域とともにある学校」に繋がるコミュニティ・スクール導入の推進	A	5	・評価：コミュニティ・スクール導入に向け、3校合同会議を開催。説明会での意見を踏まえ、運営基盤の構築と体制の確立に取り組んだ。 ・今後：学校運営協議会を深化させ、学校主導から地域主導へ転換を図る。地域が主体的に参画し持続可能な体制を目指す。
23		八重瀬町・与那原町学校給食センター建設の推進	A	5	・評価：公募に向けて資料を作成し素案を公表することができた。 ・今後：公募を行い、古くなった給食センターの課題解決のために民間事業者との契約に向けて取り組む。
24		児童・生徒家庭休暇制度の導入	A	5	評価：順調にスタートをすることができ多くの家庭で利用実施がある。 今後：想定しているよりも多くの保護者に活用していただき、学校からの反応も良かった。引き続き、当該制度を推進しながら、保護者との体験の中で児童生徒の心身の成長につなげていく。
総合評価（平均）			A	5	

○外部評価員の評価

No.15「拠点型居場所の運営支援事業の継続」については、令和7年度で三年目となる事業で、「来所状況比較」の表を参考に前年度と比べてみると来所状況が2倍となっており、本事業登録者がミライエを安心して参加できる居場所として利用できていると思われます。利用者が印象に残っていることとして、コミュニケーションタイムを挙げ、ボードゲームやおしゃべりなどの対人的な交流を「よかった」と感じており、社会性を育てる上で大切なことだと考えます。さらに、本事業を充実させるために、登録者21名の中で来所や登校が少ししかできていない子がいるとしたら、その要因の分析や対応策の検討がなされることに期待します。

No.19「部活動における外部指導者の積極的活用及び部活動指導員の任用の推進」事業については、令和9年度までの「年度別ロードマップ」が作成され、令和7年度には女子なぎなた部への部活動指導員配置や16部活に外部指導者を配置するなどの進捗が見られ評価できます。今後も引き続き他の部活動への指導員配置や地域を巻き込んだスポーツ振興につながることを期待しています。

NO.24「児童・生徒家庭休暇制度の導入」事業は、家族で過ごす時間を確保し様々な経験を通して心身の成長につなげることを目的とした新規事業であり、導入できたことが評価できます。今後は本制度利用状況について丁寧に分析し、それをもとに成果の拡充と課題解決に取り組むことで、より良い制度になることを期待します。

4. 与那原町教育委員会事務事業の点検評価

(2) 分野：社会教育

A:十分成果が上がっている（5点） B:成果がある（3点） C:改善の余地がある（1点）

No	施策名	事業説明	評価	点数	評価説明(内部評価)
1	社会教育活動の推進 (青少年教育)	子ども会、スポーツ少年団等の活動の活性化を推進すると共に、その組織及び指導者、育成の拡充に努める。	A	5	・評価：子ども会及びスポーツ少年団において、指導者や保護者の協力のもと継続的な活動が実施され、青少年の健全育成及び地域交流の推進につながった。また、各団体の自主的な運営意識の向上が図られた。 ・今後：少子化に伴う団員数の減少や競技種目の偏りが課題となっているため、活動内容の工夫や新たな参加促進に取り組む必要がある。また、児童生徒の生活リズムや安全面に配慮し、適正な活動時間の徹底を図る必要がある。
2	社会教育活動の推進 (成人教育)	高齢者教育並びに成人男性教育の振興を図るため、学習内容の充実を努める。	A	5	・評価：上の森長寿学園では20名（内男性3名）が受講し、学習意欲の向上や受講生同士の交流促進につながった。 ・今後：受講生の固定化や男性参加者の少なさが課題となっていることから、講座内容や周知方法の工夫を行い、新規受講生の開拓及び幅広い世代・性別の参加促進に努める必要がある。
3		①女性団体活動の質的向上発展を図る。 ②女性教育の振興を図るため、女性指導者研修会、学級を開催し、参加者の拡大を図るとともに資質向上を図る	A	5	・評価：女性団体との連携を図りながら各種研修会等を実施し、参加者同士の交流や学習機会の充実につながった。また、女性リーダーの育成及び地域活動への参画意識の向上が図られ、女性団体活動の活性化に寄与した。 ・今後：参加者の固定化や担い手不足が課題となっているため、若い世代を含めた新規参加者の拡大に努めるとともに、地域課題やニーズに応じた学習内容の充実を図る必要がある。
6	生涯学習の推進 (視聴覚教育)	視聴覚教育の役割について、理解と関心を深め、その教育的利用を図る。	B	3	・評価：視聴覚教材や映像機器を活用した学習機会の提供に努め、視聴覚教育に対する理解と関心を深めることができた。一方で、活用機会や利用者数は限定的であり、十分な事業展開には至らなかった。 ・今後：学校や地域団体との連携を強化し、視聴覚機器及び教材の活用促進を図るとともに、デジタル化に対応した学習内容の充実や周知方法の改善に努める必要がある。
7	生涯学習の推進 (公民館・コミュニティセンター)	①住民ニーズを把握し、より効果的な内容と方法を探求し、その実現を図る。 ②住民の公民館活動の意識を高め、指導者の育成と協力体制を図る。	B	3	・評価：公民館及びコミュニティセンターにおいて各種講座や地域活動を実施し、住民の学習機会及び交流の場の提供に努めた。また、地域団体等と連携しながら公民館活動への参加促進を図ったが、参加者の固定化や利用の偏りが見られ、十分な活性化には至らなかった。 ・今後：住民ニーズの把握に努めるとともに、幅広い世代が参加しやすい講座内容や運営方法の工夫を行う必要がある。また、地域活動を支える指導者の育成及び関係団体との協力体制の強化を図る必要がある。
8	生涯学習の推進 (図書館)	図書館について、時代にあった時代にあった資料を提供するため、住民ニーズを把握し、計画的な蔵書の収集と広域サービスの活用を努める。	A	5	・評価：利用者からの多種多様な図書リクエストや調査・研究に対応し、住民ニーズに応じた資料提供を行うことができた。また、広域サービスを活用しながら、利用者の学習活動及び情報収集の支援に努めた。 ・今後：利用者数及び貸出冊数が減少傾向にあることから、図書館利用促進に向けた取組の充実を図る必要がある。また、蔵書数の増加に伴う書架不足への対応について、計画的な蔵書管理や施設環境の改善を検討する必要がある。
9	文化財の保護	①文化財を保護し、まちの歴史への正しい理解を通じて郷土愛を深める。 ②史跡、名勝、天然記念物等の周知と保護を図り調査体制を確立する	A	5	・評価：町内小学校の総合学習にて町の産業とともに歴史、史跡の講話を実施した。新たに板良敷トーチカに遊歩道を設置した。 ・今後：トーチカ及び周辺の調査を実施していく必要がある。
10		大綱曳、獅子舞等、町の貴重な歴史民族資料の調査、収集に努める。	A	5	・評価：与那原大綱曳の調査を実施した。町史「戦後の与那原ビジュアル版」に必要な調査を実施した。上与那原の獅子舞修繕の助成金申請の助言を行った。 ・今後：引続き調査を行っていく。上与那原区の獅子舞修繕については、引続き助言、指導を行っていく。
11	伝統、文化の継承推進 (大綱曳資料館)	450年余の伝統を誇る与那原大綱曳を継承発展させる為、大綱曳資料館の一層の充実を図る。	A	5	・評価：新たなコンテンツとして多言語化の導入が完了した。各展示拡充に伴い来館者数が増加した。 ・今後も引き続き多言語化の充実と来訪者への周知に取り組んでいきたい。
12	伝統、文化の継承推進 (与那原町史の編集)	①町民自らが参画し、主体的取組によって作られる町史編纂に努める。 ②創意工夫を凝らしたきめ細やかな叙述と平易な文書による編集に努める。	B	3	・評価：町史「民俗・芸能」を発刊し紙媒体、電子媒体フル活用し周知、また平和祈念事業の中でも紹介出来た。 ・今後：積極的な平和教育の企画と場所づくりを推進する。
13	芸術・文化活動の推進	芸術・文化活動を助長し、それらの発表の場を推進するとともに優れた芸術、文化の紹介に努める。	A	5	・評価：文化施設を提供し様々な芸術文化に触れてもらう機会を提供する事を行った。 ・今後：文化施設を提供し、様々な芸術文化の発表の場や鑑賞する機会を設けていく。
14		地域におけるグループ・サークル等による芸術・文化の推進を図るとともに、その組織強化を図り、支援する。	A	5	・評価：文化協会主催文化祭や各行政区のサークル、老人会文化祭事業への支援協力を行った。 ・今後：引続き支援協力を行っていく。

4. 与那原町教育委員会事務事業の点検評価

(2) 分野：社会教育 A:十分成果が上がっている（5点） B:成果がある（3点） C:改善の余地がある（1点）

No	施策名	事業説明	評価	点数	評価説明(内部評価)
15	芸術・文化活動の推進 (上の森かなちホール)	上の森かなちホールを活用し文化芸術の発信を積極的に進め、町民の豊かな暮らしに繋げる。	B	3	・評価：自主公演のための公演誘致が行えず、文化芸術発信の機会を逃した。 ・今後：公演の誘致のみではなく、文化に気軽に触れる機会を設ける。
16	青少年健全育成の推進	与那原町青少年健全育成町民会議を中心に、青少年健全育成活動を推進する。	A	5	・評価：与那原町青少年健全育成町民会議を中心に、青少年健全育成町民大会の開催や夏休み前の啓発活動、意見発表会、夜間パトロールによる見守り活動を実施し、地域全体で青少年を育成する意識の醸成につながった。 ・今後：啓発活動に加え、地域や関係団体が連携した実働的な見守り・支援体制の構築が課題であることから、継続的かつ実効性のある組織づくりについて検討を進める必要がある。
総合評価			A	4.43	
○外部評価員の評価 No.8の「図書館」事業については、IT化やデジタル社会化が進み、若者の活字離れや書店の閉店が顕著となっている近年において、来館者数が3年間横ばいとなっていることは評価できる。町立図書館が住民のニーズを把握し、計画的な蔵書の収集と広域サービスの活用に努めた結果だと考えられます。「図書館えほん便」による団体への貸し出し点数の増加及び、年齢別貸し出し点数では70代以上が5年間で最高点数となっていることを踏まえ、活字離れが進む中高校生や読書意欲が高まりつつある高齢者を対象とした事業の新たな展開を期待します。 No.11「大綱曳資料館」事業については、多言語化の導入や資料館独自の各展示拡充に伴い、入館者数が平成30年以降で最多となる4,151名となったことが評価できます。さらに入館者を増やすために、「曜日別入館者数」と各種イベントとの関連性の分析及び、「団体来館者状況」の傾向や広報先の検討を行うと共に、与那原町の行事（各種祭り、イベント等）や施設（かなちホール、観光交流施設等）と連動した取り組みを試みてほしいです。					